尿沈渣での異型細胞検出率の検討　―尿細胞診陽性例について―

◎阿部 紗也加[1)]、田中 麻生子[1)]、樋口 あすみ[1)]、佐藤 美紀子[1)]、佐藤 美由紀[1)]、白田 亨[1)]、森兼 啓太[1)]
山形大学医学部附属病院[1)]

【はじめに】尿検査における日常業務の中で、尿沈渣中に異型細胞が出現することがある。その場合、尿細胞診が実施された検体は後日その結果を確認することができる。しかし、尿細胞診陽性だが、尿沈渣で検出されていない場合も多い。今回、尿細胞診陽性の検体のうち、尿沈渣ではどの程度異型細胞を検出できているのか比較検討を行った。

【対象および方法】2018 年 5 月 1 日より 2019 年 5 月 31 日の期間で尿沈渣と尿細胞診の同時依頼があった 1021 例中、尿細胞診の結果が陽性（Malignant）または疑陽性（Atypical、Suspicious）となった 56 例を対象とした。尿沈渣はフローサイトメトリー法（UF-1000i）で測定後、鏡検基準（O.B（2+）以上の第一内科・泌尿器科・小児科・ドック、P/C 比 300mg/gCre 以上など）に該当したものを鏡検した。尿細胞診はフィルター法で標本作成後、Papanicolaou 染色を実施した。

【結果】

尿細胞診結果（例）		尿沈渣異型細胞（例）	鏡検未実施（例）
Atypical	13	2（15%）	5
Suspicious	21	2（10%）	3
Malignant	22	7（32%）	0
計	56	11（20%）	8

【考察】尿細胞診陽性・疑陽性 56 例中、尿沈渣で異型細胞が検出されたのは 11 例（約 20%）であった。また鏡検基準に該当せず、鏡検法未実施のものも 8 例あった。尿細胞診のフィルター法は細胞成分が多いという長所があり、Papanicolaou 染色は Sternheimer 染色に比べ、核形不整や核クロマチン増量などの核異型が観察しやすい。今回尿沈渣で異型細胞が観察された Atypical 以外の 9 件のうち 6 件は尿細胞診で異型細胞が多数出現または集塊を形成していた。このことより、尿沈渣でも細胞数が充分であれば異型細胞の検出が可能であると思われた。

【結語】尿沈渣の性質上、異型細胞の検出には限界があるが、尿沈渣で異型細胞を検出した場合は細胞数が多数あると考えられ、尿細胞診を提出する必要があると考えられた。

連絡先 023-628-5674（直通）